園長通信～こころ～ №８８

国語の力その８

2024.8.9

論理的思考力とは、バラバラの考えや言葉を整理するための力である。整理には、重要な目的がある。それは、バラバラの考えや言葉を、誰かに伝えるということである。自分一人で何かを考えるときは、その誰かは自分になる。自分とのコミュニケーションである。何かを整理して誰かに伝えるとき、その方法には、どんなものがあるだろうか。「まとめて伝える・分けて伝える」「比べながら伝える」「順序よく伝える」などだろうか。

何ごとも、洗練されていくと、以下のようにシンプルになっていく。シンプルだからこそ、子ども自身が真似しながら、それらの技法を体得していくことができるようになる。焦点化する、重点化することがポイントである。

国語力とは、論理的思考力である。論理的思考力とは、３つの力である。３つの力とは、言いかえる力、比べる力、たどる力である。

さて、国語力がつくと、他の教科の力も伸ばすことができるのだろうか。入試などには、国語だけでなく、算数・数学、社会、理科、どれをとっても文章で説明させるような問題が出題されている。もし、整理してまとめることができたとすれば、論理的に書くことができたということである。また、算数や数学には文章問題がある。できない子どもは、本当に算数・数学ができないのだろうか。実は、そもそも文章問題の意味がわかっていないということはないだろうか。全国的な調査では、クラスの約半分の子どもが、教科書を読めない、教科書の内容を理解できてはいないということが明らかになっている。国語力、特に読解力が足りないために、文章の意味がわからず、算数・数学の問題が解けないということではないか。論理的思考力、つまり３つの力は、あらゆる教科を根底で支えてくれる土台、原動力になる。

論理というとむずかしそうで、小学生に無理なのではないかと危惧する人もいることだろう。小学生には、中学生の読解問題はできないのだろうか。そんなことはない。実際に、中学生の問題を解いてしまう小学生は、たくさんいる。３つの力の使い方には、学年の差はない。論理に、学年は関係ない。たとえ、日本語の使われ方や言葉の意味内容が、時代の流行とともにと変化、変遷していくとしても、論理それ自体が変化することはない。

国語力が他教科の力にまで影響を及ぼすとしたら、小学校で、国語の授業時数が他教科よりも多いことにも納得がいく。それだけ、国語力は重視されなければならない。